

日刊 勤労千葉

86. 7. 5
No. 2285

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五〜六（公衆）〇四七二二七二〇七

勤労解散→鉄労への合体 策動する松崎

なんと 全国大会に三塚(運輸相)・杉浦(鉄総裁)を招待!

産業報国会へ転落
した松崎「勤労」オダ 全国大会を断罪する
NO.2

勤労革マルリ松崎は、第四二回全国大会で、勤労を解散して鉄労の下に勤労組合員三万人を売り渡す「四組合組織統一」の大裏切り方針を決定しようとしている。勤労の解散→解体は、国労・勤労千葉の解体が狙いであり、国鉄労働運動→総評労働運動の解体・一掃であり、中曽根の戦後政治の総決算が狙いだ。勤労解散→「四組合統一」で雇用が守れるというのか。鉄労が守ってくれるとでもいうのか。

鉄労の下に三万組合員を売り渡す松崎

方針案は「四組合共闘強化・一企業一組合の結成・労働戦線の統一を目指したたたかい」の項で、「国労を中軸とした現状の国鉄労働運動では未来はない。…新しい事業体における労働組合・運動は共同宣言を発した四組合のたたかいが基礎となる。…現状の国鉄労働運動を克服し、組合員の利益と鉄道事業の発展、労働運動の強化に寄与するためには、新事業体へいくなかで、各組合が一企業・一労働組合の結成を目指す道しかない」としている。

ここに全てが凝縮されている。詭弁を弄しながら国鉄労働運動破壊Ⅱ分割・民営化をやる。それには「四組合組織統一」→鉄労がイニシアチブをとるべき→鉄労の下に三万組合員を売り渡す。これが「たたかい」なのだといっている。松崎などに国鉄労働運動がふみにじられつづかされていいのか。

これほどまでに屈服しても「雇用を守る」路線は破綻の危機に

松崎は「雇用を守る」と称して、この間屈服に屈服を重ねてきたが、ついに中曽根・当局に「勤労を解散せよ」と恫喝され受け入れてしまった。松崎は、ブルトレ、入浴、職員バス、「五九・二」、

「三本柱クリアー」「アンケート」、広域配転、企業人教育、勤務評定と限りなく屈服を重ねることで生きのこれると組合員をだましつづけてきた。だが、松崎は「勤労組合員の全員が生きのこれるわけではない」と言いだした。化けの皮がはがれだし、鉄労の下に勤労組合員三万人を売り渡そうとしている。

しかし、鉄労からも「偽装転向だ」「勤労から革マルが消えたとは思わない」と信じてもらえず、運輸は勤労、営業は鉄労などと策し、真国労なども使い、国労解体を目論んでみたものの破産し、当局も新事業体では一企業一組合、鉄労が本命という現実に勤労組合員を鉄労に売り渡す大裏切り方針にうってでてきたのだ。

大会に三塚・杉浦を「招待」
川もはや「労働組合」ではなくなった

六月二十九日「国鉄改革に取り組む職員を集い」なるマル生集会上に松崎は喜々として出席、「労資一体となって国鉄改革を」などと発言した。労働者の立場を完全に投げ捨てた松崎は、勤労全国大会に国鉄労働者十万人の首を切り、国鉄労働運動を破壊する張本人、運輸相Ⅱ三塚、総裁Ⅱ杉浦を招待するという。先輩が血と汗で築き上げてきた職場と組織は松崎によつて破壊されてしまう。こんなことは許してはならない。(以下つづく)

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ!